

# 福玉便り

2022年1月1日発行

通巻 第94号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



## 2022年に幸あれ

皆さん、お変わりございませんか? 2021年から11回目のお正月を迎えようとしています。

2021年は1月から緊急事態宣言が発令され、その後も感染者数に一喜一憂する日々が続きました。外出や会食を控え、換気と消毒を心がけ、マスクを手放せない「新しい生活様式」が当たり前になりました。2月には感染収束への「切り札」とされた新型コロナウイルスワクチンの接種が始まり、12月にははやくも3回目の追加接種が始まりました。誰もがワクチン接種について考えた一年でした。接種は強制ではなく、あくまで本人の意思に基づくものですから、『打つ』『打たない』を含め、接種に関しても色々な感じ方が生まれるのも自然なことだと思います。ただ、様々な意見や情報飛び交い、それぞれの意見や選択に対して批判の声も上がるようになって、重苦しい気持ちになることもありました。そんな時、昨年のアンケートで寄せていただいたある方の言葉がいつも思い出されました。

「このコロナによるざわざわした状況は私たちにとってとても悔しいものです。見えず、匂わず、わからず、それは原発事故による放射性物質と同じ、しかし、その扱いはあの時よりもぞんざいで苦しむ方々がより増えています。私たちの砂を噛むような日々は何だったのでしょうか。」

「あれから10年」という言葉が飛び交った2021年。10年で区切られるものではないと思いつつも、この10年は何だったのか、と自問することが多かった一年でした。私たちもそうでしたから、被災・避難された皆さんはさらに複雑な想いを抱かれたのではないのでしょうか。一人で問い続けることはエネルギーが要りますが、それが誰かとつながり、伝えたい、話を聞きたいという原動力にもなるようにも感じます。オンラインピックや新型コロナウイルスにかき消されることなく、11年目の今年も『福玉便り』は問い続け、つながっていきたいと思います。

秋以降、感染者数が減り、交流の機会が少しずつ戻ってきました。以前のように交流会の会場で言葉を交わす喜びをしみじみ感じます。お互い生きていたから再会できたのだという気持ちが湧いてきます。引き続き予防に努めながら、少しずつ交流できる場を広げていく予定です。福玉便りでご案内しますので、ぜひご参加ください。

不安な気持ちや誰かと話したいという気持ちになった時は、いつでもご連絡ください。どのようなことでも結構です。お葉書でも電話でもメールでも大歓迎です。お待ちしております。

引き続き、今年もよろしくお願い申し上げます。

『福玉便り』編集部

緊急事態宣言が解除されましたので、

月曜日、水曜日～金曜日の10:00～16:00となりました。

福玉相談センター：電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)

メール：fukushima\_soudan@yahoo.co.jp



まずは、お気軽にお電話ください。相談員が丁寧に話をうかがいます

\*祝祭日はお休みです。\*フリーダイヤルですので通話料の心配がありません。

お子さんやお孫さんたちの様子に気になることはありませんか? 外出を控える生活が続きますが、体の調子はいかがですか? 福祉サービスを利用したいけれど、どうしたらよいかかわからないと悩んでおられませんか? まずは、お気軽にお電話ください。教員、看護師、社会福祉士等の経験を持った相談員が丁寧に話をうかがいます。

## 交流会に参加しました

12月9日、初めて、新都心の「つながりカフェ」に参加させていただきました。素敵なクリスマスリースを先生に直々に教えて頂く事ができました。

今、我が家の玄関で、クリスマススを飾っていています。本当にありがとございました！

私は現在、南相馬市小高区から千葉県柏市に避難しています。避難と言っても震災から早、10年、最近は避難者と言う実感は無く、地元の方々と一緒に最寄り駅の花壇の植え替えをしたり、民生委員の方のお手伝いをさせてもらったりと、すっかり地元馴染んで生活しています。でも、そこで福島弁で話すことは無く、福島弁口スになる事もしばしば。

そんな時、福島の方々が集まるカフェやイベントに参加すると誰に遠慮する事なく福島弁で喋る事ができ、ホッとします。

今回、私が初めて参加したさいがい・つながりカフェで本当に繋がる出来事がありました。自己紹介をして、小高区出身と話した時、前の方で同じ小高区の方が笑顔で手を振ってくださいました。帰りがけにお話する事ができ、お一人の方が、私の友人の叔母に当たる方と分かり、初めて会った方とは思えない程、話しが盛り上がっていました。帰ってからその事を福島の友人にメールすると、とても喜んでくれ、更に数時間後には叔母さんからお母さんに電話があったと嬉しい報告がありました。次の日、写真を送ると、久しぶりに元気な姿を見ることができたと家族で喜んだそうです。

名実ともに今回、「つながりカフェ」の意味がわかったような気がしました。

素敵なおリースと、すばらしい出会いの場をくれた「さいがい・つながりカフェ」に感謝すると共に、これからもできる限り参加したいなあ〜と思っています。

新参者ですが、これからもよろしくお願い致します。

鎌田晃子



交流会会場(With You さいたま)に寄贈したリースは入り口に飾ってあります。

## 所沢交流会「青空あおぞら」

毎月第4日曜日(基本)に開催しています

所沢での交流会「青空あおぞら」も、新型コロナウイルスが広がっている状況では、多くの交流会と同様、継続して安定的に開くことが難しく、昨年の二月以降、二年近くも休止と開催を繰り返しております。特に、緊急事態宣言が出されているときは、会場として使用している公民館の都合もあって、なかなか定期的に行うことができませんでした。

こうした中でも、感染がやや落ち着いている合間に、少しずつ開催を模索してきています。その際に、参加者の近況を確かめ合うことを大切にしています。

会場が新所沢のコミュニティセンターということもあり、所沢、入間、狭山などの近くの自治体を軸に、川越、坂戸などの方を含めて、参加者の多くが、埼玉県西部地域からということになります。また、多くの人にとって、着実に、参加者の皆さんにとっての居場所の一つになっていること



でしょう。毎月の参加を楽しみにしている様子もうかがうことができ、その意味では、続けていくことの大切さを、とても強く感じているところです。

基本的には、月末の日曜日の午後開催されています。ときおり、とりわけ、日曜日の午後のひと時、ゆったりとした時間を、参加者とともに過ごすのが、とても心地よく感じます。畳敷きの部屋で開かれることが多いのですが、くつろげる空間で、リラックスした感じで会話を楽しむ、そんな交流の場が、できるだけ長く続いていくことを、心の底から、とても強くいつも願っています。

ぜひ皆様のご参加を心よりお待ちしております。

震災支援ネットワーク埼玉 副代表  
北村 浩

お問い合わせ：震災支援ネットワーク埼玉 事務局 愛甲

電話：090-8879-0213

# 子どもだった人たちの発信

「子どもたち、特に思春期を経た子どもたちが、いちばん辛かったかもしれないよね……」と、避難をしてい

る方から連絡をいただきました。その娘さんは、ある地方紙の取材を受けて、「読まなくてもいいよ」と親であるその方に言ったそうです。自分のつらい経験を振り絞るように地方紙記者に語る一方、親には心配をかけまいとする姿でしょうか。

原発事故、子どもたちは大人の姿を見て育ちました。「自分のまわりに起きることを、ただ見続けるしかなかった」子どもたち。11月には、早稲田大学災害復興医療人類学研究所(Miue)主催、震災支援ネットワーク埼玉(SSN)らが共催となり、『福島原発事故10年の経験から学ぶ―当時小学生だった若者たちとの対話から―』というシンポジウムも開催されました。

いわき市から東京に避難

をした男の子の学生さんは、「自分の中で一番辛かったのは、親や弟の悪口を言われること」と話します。メディアの出す情報、情報を出さないことへの不審。本

分に子どもたちは大人のことを、社会のことをよく見ています。福島市から京都に避難をした女の子の学生さん

「あの子は福島の子やで」と言われ、京都では「福島の子」、福島に帰ると「京都の子」と、居場所のなさを感じたそうです。「私のことなんか誰もわかってくれない」という孤独感。また、発信をする時に、正直な気持ちを話せず、自ら抑制的に話してしまうことも語ってくれました。それでも、「なかったことにされる」ことだけは阻止したいと、「自分と同

じ思いをする子どもが生まれないように」と話してくれました。

また、ある女の子の学生さん(埼玉に避難をしています)は、『優しい逃げ道』を提供できる大人になりたい」と話しました。「大人にこういう風にしてほしかった」という思いを語ってく

れています。いじめにも向き合ってくれなかった先生のこと、ネットでの「原発の」恩恵を受けたくせに「避難民のくせに」といった

誹謗中傷にも触れ、匿名性による暴力的が社会の問題だと指摘。傷ついた時の「ケア」の大切さを語りました。子どもたちの発信は、10年を経て増えています。以前、「福玉便り」でもお伝えした、甲狀腺がんに罹患した男の子もそうですが、本を出版した子どもたちもいます。たとえば、2020年2月に発行された『ありのままの自分で―東日本大震災を

経験した母娘の選択』、あるいは、2021年3月に発行された『わかな十五歳 中学生の瞳に映った3・11』。原発事故後に翻弄された心の様子を言語化するのは、とてもつらい作業だと思いつつ、胸が潰れるような思いでページをめくりました。

そのわかなさんは、先日、立教大学の授業(福玉便り・原田峻さんの授業)でお話をされていました。学生よりも少しだけ年上のわかなさんの経験に、学生たちが耳を傾けていました。「原発事故が起きてよかったとは思っていないけれども、この経験があったからこそ、気がついたことがたくさんある」と本に書いてあるわかなさん。立教大学での授業の様子は、次号にて原田さんからのレポートがあります。

大人として、申し訳なさと、伝えてくれてありがと

う、という思いで子どもたちの言葉を受け取っていますが、そういった機会が増えるごとに、一緒に悩める人でありたいとも思います。シンポジウムはYouTubeで配信され、書籍も購入が可能です。ぜひ、ご覧になってみてください。

(編集部・吉田)



## 3・11の今がわかる会議 2021

11月27日、東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）主催の「3・11の今がわかる会議2021」のテーマ②「10年経過した今、福島島の暮らしの現状と課題とは」のトークセッションが、オンラインで開催されました。パネリストは、篠原洋貴さん（災害支援ネットワーカーWaki）、清水裕香里さん（特定非営利活動法人Jin）、三浦恵美里さん（特定非営利活動法人ビーンズふくしま）、澤上幸子さん（NPO法人えひめ311）です。原田はこのトークセッションに、福留邦洋さん（岩手大学）とともにコメントーターとして参加しました。

篠原さんは、いわき市における災害公営住宅・復興公営住宅の課題、避難者と地域の課題を踏まえて、今後の課題として「地域コミュニティ崩壊の加速化」「孤独や孤立化の進行」を挙げ、「ネットワークの構築と協働」「地域支援コーディネーターの配置」の必要性を指摘されました。清水さんは「浪江町は限界集落のような状況が早くきた」と指摘し、デイサービスと花卉栽培などの活動についてご紹介して、「一人ひとりが持っている力をどう生かすか」を提起されました。三浦さんは、福島県内各地での「ままかフェ」の経験をもとに、参加者を「避難先から戻ってきたママたちの安心の場」から「福島で子育ての不安を抱える方」に拡大して多様な参加者が増えたことや、母親の共同体験・コミュニティ形成の機会が減って育児ストレスが増えていること、個別アプローチをしないと悩みが表出されにくいこと、などを指摘されました。双葉町から愛媛県に避難された澤上さんは、「避難者の方々が「なんでここににいるの?」という思い

を抱いていること、子どもはみんな「強制避難者」だが気持ちを伝える機会が少ないこと、これからの県外避難者支援ではインフォーマルな社会資源（家族やボランティア）とフォーマルな社会資源（公的機関や専門職）の両輪が必要なこと、などを指摘されました。皆さんのお話を踏まえ、原田からは以下のようなコメントをしました。篠原さん・清水さん・三浦さんのお話はそれぞれ「ネットワーク」「場所性」「属性」という視点だったが、この三つの視点はどれも重要で相互に関わっていること。篠原さんのお話は団地コミュニティ、清水さんのお話は限界集落、三浦さんのお話はコロナ禍での子育てなど、震災・原発事故以外の社会問題と共通する部分があり、被災者・避難者支援と既存の生活支援との接続や役割分担が重要になるこ

と。澤上さんのご指摘の通り、県外避難者支援ではインフォーマルとフォーマルの連携が重要になるが、現状はどの地域に避難したかで支援が異なってしまうていること、10年経って支援団体の疲労も見られる中で情報を送り続けることの必要性、などです。

最後にコーディネーターの栗田暢之さん（JCN）からは、場づくり・きっかけづくりや、「いつまでやっているのか」という視点に負わずに発信し続けること、人を繋いでいくネットワークづくり、などのキーワードが挙げられました。

私自身、「福玉便り」の活動をしていて、「はたして今のような支援で良いのか」と迷うことが多々あります。読者の皆さんや他団体の方々の声も聴きながら、今後の支援のあり方について、引き続き考えていきたいと思えます。

（編集部・原田）

## 牛山先生による「甲状腺検査&よろず健康相談会」をふじみ野市で開催します。どなたでもお気軽にご参加ください。

今までさいたま市ばかりでしたので、今回は東上線沿線のふじみ野市で開催します。少し先ですが、3月5日（土）の午後1時開始、場所は上福岡駅から徒歩数分の場所を予定しています。よろず健康相談会も行いますので、どうぞお気軽に足をお運びください。検査や参加ご希望の方は下記までご連絡ください。場所が確定し次第、こちらからご連絡いたします。お問い合わせや申し込みは、福玉相談センター（0120-60-7722）まで。主催：特定非営利活動法人埼玉広域避難者支援センター



## 「全国避難者情報システム」への登録が不明な方、 ぜひお住まいの市町村で確認ください

2021年9月11日に「県外避難の把握、3割できず」（朝日新聞）、「3877世帯 所在把握できず」（読売新聞）という見出しの新聞記事が発表されました。今年の3月に復興庁と福島県が「全国避難者情報システム」のデータを用いて約12,000世帯、約28,000人に現住所の確認を求める文書を郵送したところ、31.9%にあたる3877世帯分が宛先不明で戻ってきたとのことでした（宮城県763世帯、栃木県718世帯、東京都469世帯）。現在、宛先不明分の精査が各自治体で行われているようです。

総務省が管理している「全国避難者情報システム」は、避難者が避難先の市町村に住所や名前を届け出ると、避難前の市町村に通知される仕組みです。登録をすることで避難元の市町村からの案内や、各種の避難情報が届くようになります。2021年5月には埼玉県川越市が意思確認せずに住民票を移しただけで避難者数の統計から除外していた問題がありましたが、「全国避難者情報システム」は、国や福島県の避難者支援政策の前提となるデータです。皆さんの中で登録に迷いがあれば、下記の避難先の問い合わせ先に連絡してみてください。福玉相談センター（0120-60-7722）にお問い合わせいただいても結構です。

市町村名	窓口担当課	連絡先電話番号	市町村名	窓口担当課	連絡先電話番号
さいたま市	区政推進部	048-829-1833	久喜市	市民課	0480-22-1111（内線5842）
西区	くらし応援室	048-620-2627	北本市	市民課	048-591-1111（内線2317）
北区	くらし応援室	048-669-6027	八潮市	市民課	048-996-2111（内線210）
大宮区	くらし応援室	048-646-3027	富士見市	市民課	049-251-2711（内線307）
見沼区	くらし応援室	048-681-6027	三郷市	市民課	048-953-1111（内線1206）
中央区	くらし応援室	048-840-6027	蓮田市	市民課	048-768-3111（内線117）
桜区	くらし応援室	048-856-6137	坂戸市	市民課	049-283-3109
浦和区	くらし応援室	048-829-6052	幸手市	危機管理防災課	0480-43-1111（内線584）
南区	くらし応援室	048-844-7137	鶴ヶ島市	市民課	049-271-1111（内線142）
緑区	くらし応援室	048-712-1137	日高市	市民課	042-989-2111（内線1202）
岩槻区	くらし応援室	048-790-0128	吉川市	市民課	048-982-9692
川越市	市民課	049-224-5744	ふじみ野市	危機管理防災課	049-262-9017
熊谷市	危機管理課	048-524-1111（内線333）	白岡市	市民課	0480-92-1111（内線137）
川口市	市民課	048-258-1604	伊奈町	住民課	048-721-2111（内線2114）
行田市	市民課	048-556-1111（内線243）	三芳町	住民課	049-258-0019（内線142）
秩父市	市民課	0494-22-5348	毛呂山町	総務課	049-295-2112（内線311）
所沢市	市民課	04-2998-9087	越生町	総務課	049-292-3121（内線217）
飯能市	市民課	042-973-2111（内線101）	滑川町	健康福祉課	0493-56-2056
加須市	総務課	0480-52-1111（内線333）	嵐山町	地域支援課	0493-62-2152
本庄市	市民課	0495-25-1113	小川町	町民課	0493-72-1221（内線141）
東松山市	市民課	0493-23-2221（内線102）	川島町	町民生活課	049-299-1754
春日部市	市民課	048-736-1111（内線2898）	吉見町	総務課	0493-54-1505
狭山市	福祉政策課	04-2953-1111（内線1512）	鳩山町	町民健康課	049-296-5891
羽生市	町民生活課	048-561-1121（内線134）	ときがわ町	総務課	0493-65-0401
鴻巣市	市民課	048-541-1321（内線2435）	横瀬町	いきいき町民課	0494-25-0115
深谷市	市民課	048-574-6640	皆野町	町民生活課	0494-62-1232
上尾市	危機管理防災課	048-775-5140	長瀨町	町民課	0494-69-1102
草加市	市民課	048-922-1536	小鹿野町	住民生活課	0494-75-1418
越谷市	市民課	048-963-9126	東秩父村	住民福祉課	0493-82-1226
蕨市	市民課	048-432-3200（内線217）	美里町	住民保険課	0495-76-1366
戸田市	市民課	048-441-1800（内線204）	神川町	町民福祉課	0495-77-2111
入間市	市民課	04-2964-1111（内線1229）	上里町	町民福祉課	0495-35-1224
朝霞市	総合窓口課	048-463-1111（内線2614）	寄居町	自治防災課	048-578-8585
志木市	総合窓口課	048-473-1111（内線2134）	宮代町	住民課	0480-34-1111（内線319）
和光市	危機管理室	048-424-9096	杉戸町	くらし安全課	0480-33-1111（内線282）
新座市	市民課	048-424-2677	松伏町	住民ほけん課	048-991-1866
桶川市	市民課	048-788-4922			

埼玉県問い合わせ先：企画財政部 市町村課 〒

330-9301 さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号 本庁舎3階 Tel：048-830-2670、Fax：048-830-4739



緊急事態宣言の解除に伴い、一部の交流会が対面で再開します。各交流会に参加される方は、体温測定およびマスク着用の上でご参加ください。また、交流会中は消毒や換気にご協力ください。

③【双葉町老人クラブ女性会&さいがい・つながりカフェ】1/18(火)、2/15(火) 10:00~12:00 いきいき広場 080-5532-7380(薄井さん)

### ⑤【すくすくのおそび広場】

・すくすくのおそびひろば 2/20(日) 10:30~14:00 不動岡公民館 楽しいお食事と、前後にいろいろなゲーム。小学生はパソコンでのプログラミング体験も。

・プチ・パントリー 1/16(日) 12:00~ 不動岡公民館 子ども食堂ネットワークを始めとする埼玉フードバンク様などの団体、加須市、企業様、農家様のご支援で食品をお配りしています。福島から避難された加須市に住む子育て家庭を歓迎しています。ご相談下さい。

### ・小中高生勉強会(市民プラザかぞ)

1月は13日(木)から再開(毎木曜17~19時)

※避難された皆さんも、一緒にボランティア活動参加はいかがですか？

いずれも事前にご連絡ください。090-2411-8598(戸恒さん)

### ⑨【さいがい・つながりカフェ】

1/13(木)、1/27(木)、2/10(木)、2/24(木) 11:00~15:00 With Youさいたま 4F 和室(当分の間、飲食なし、マスク着用。時間内の出入りは自由ですので、それぞれのご都合に合わせてご参加ください。)080-5532-7380

どなたでもお気軽にご参加ください。tunagari.saitama@gmail.com

### ⑳【おあがんなんしょ交流会】

1/16(日) 新年会・正月遊び等 13:00~16:00 西公民館集会室 2/20(日) フリートーク・ゲーム等 13:00~16:00 西公民館視聴覚室 090-5345-8408(松舘さん)

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
③	加須市	双葉町老人クラブ女性会&さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380(薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのおそび広場	090-2411-8598(戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560(藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわ	080-3091-6215(橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑫	久喜市	お茶っこふるさと会	090-6855-7140(木幡さん)
⑬	杉戸町	いきがいサロン	0480-31-0055(すぎとSOHOクラブ小林さん)
⑭	春日部市	春日部つながりカフェ	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
⑮	越谷市	ひだまり広場	080-5006-3310(河原崎さん)
⑯	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001(石上さん)
⑰	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123(島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
㉒	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155(谷森さん)
㉓	所沢市	青空あおぞら	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
㉔	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408(松舘さん)
㉕	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494(鈴木さん)
㉚	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948(小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018
㉛	毛呂山町	つながり	090-9032-8116(河井さん)

⑥【オバトン】先月はコロナ自粛以来久々に参加された方や新しく参加された方々で交流の場となりました。不安のある中でお互いに顔を合わせて話して笑顔になって少しでもホッとできる場になっている事に嬉しく思います。いつでもお待ちしております。1/27(木)、2/8(火)、2/24(木) 10:00~15:00 キャスルきさい 090-6526-8560(藤井さん)

⑭【春日部つながりカフェ】1/11(火)、2/1(火)13:30-16:30 コーププラザ春日部3F第1会議室(2/1は司法書士参加) 090-8879-0213(SSN・愛甲さん)

⑮【青空あおぞら】1/23(日)、2/27(日) 13:30-16:30 新所沢公民館(司法書士参加) 090-8879-0213(SSN・愛甲さん)

㉚【玉兎の会】1/23(日) 10:30~12:00 With Youさいたま 4F 視聴覚室 対面、集合型での開催です(予約は要りません!お気軽にご参加ください) 090-6128-1948(小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018